

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)

豊作予想の一方、高温障害が心配される猛暑の今夏

産地間競争の激化が予想される中、ブランドに奢ることのない対策の模索を

連日、真夏日が続いています。この地域では一か月近く、雨もほとんど降っていません。一方、九州地方では大水害に見舞われるなど、天候は大変不公平だという気もします。しかし、人間の都合の良いようにならないのが自然界の道理なのでしようから、それを承知でそのまま受け入れざるを得ないのでしよう。

8月の初めにはこしいぶき等の早生種が出穂しました。当地域特産の「早期越路早生」は7月20日頃には出穂してすでに穂を垂らしています。コシヒカリも5日前後には出穂期を迎えるでしょう。好天続きで出穂が早まっているようです。

前回に田植え時の状態が最後まで影響すると記しましたが出穂期になった稲姿も田植えの時の違いをそのまま引きずっているのは面白くないと思います。特に田植

えは短期間で効率一辺倒になってしまいがちですが、せめて植え付け本数や植え付け深さに留意した方が良いのではないかと思われまます。余計な手間暇を必要とするわけではありませぬので、その必要性を認識するか否かだけなんです。

ところで、今年の春先育苗時期にはほとんど見かけなかったスズメが大群で越路早生の穂先にぶら下がっています。スズメは渡り鳥ではなかったはずですから、どこから湧いて出たのでしょうか。増えたと言えば今年は何種類かのバツタが増えたようです。イナゴは比較的少ないようです。カメムシなどの発生の多寡と違って、トンボやバツタは米の収量や品質にほとんど影響がないのでしようから、役にも立たないことを考えているものだと笑われてしまいうす。

しかし、水田の生物多様性を云々するなど大上段に構える心算はありませんが、様々なものに気づく楽しみや喜びや決して

小さくはないと思われます。

柏崎市立「夢の森公園」の「農と暮らし」の講座に月に1回お手伝いに行っています。7月は8日が講座日でした。当日の講座内容は自然農(肥料も農薬も使用しない)の田の草の手取り、夏・秋野菜の手入れ、菜種の搾油体験等でしたが、お昼のサラダに使った搾りたての菜種油の味と香りは絶品でした。毎回、お昼は自分たちで育てた米と野菜で調理します。前置きが長くなってしまいました。が、公園の入り口の建物である「エコハウス」から作業棟「里山工房」までのメイン道路(歩道)が数百メートル程ありますが、その道の脇に他ではすっかり見られなくなってしまう「ネジバナ」がびっしりと満開の状態でした。30名ほどの受講生は皆さんが同じ道を歩いてこられたはずですが、確認したところ「ネジバナ」に気付いたのは残念ながら半数の人達だけでした。その日の講座内容だけでなく、公園全体の四季おりおり、

その時々の変化や移り変わりを丸ごと全部楽しんでほしいというのが私の気持ちです。講座では作物を育てることを主なプログラムにしています。月に1回、年に10回程度の講座で得られる知識や技術の中身はほんの僅かです。私が受講生に期待しているのは、それまで気付くことがなかったような自然界の様々な変化や移ろい、そして、野菜などのわずかな違いや変化に興味をもって、感動や喜びを味わえるようになってほしいということです。帰りはネジバナを見ながらゆっくりと歩いてみましたが、反対巻に捻じれているもの、まったく捻じれずに一列に花が咲いているものや白花など、様々な変化を見つけたことができ、皆さんで新たな発見を楽しむことができました。

稲は好天続きのため中盤で相当肥料を吸っているようです。今年は「基肥よりも穂肥の窒素量が多くなった」などと冗談がでるほどしっかりと穂肥を振った生産者が多かったようです。幸いにしてまだ用水が十分

にありまますので豊作の条件が揃っています。ただし、それは量の問題で、品質のことを考えると登熟期の高温による高温障害が心配です。乳心白・基部背白などの未熟粒の発生が懸念されます。欲を言えば夜間の気温がもう少し下がってくるとよいのですが。作柄の良いのは全国的な傾向のようですので、そうなるとうでに800万トン割ってしまっている需要量を生産量が上回り、供給過剰が発生してしまします。全体の供給過剰は当然価格に反映されます。産地間競争がより一層激化するのを避けられないでしょう。

「新潟産コシヒカリ」のブランドに頼ってばかりはおられないという事は、今更申し上げる必要はないでしょう。県で育成しているポストコシの晩生新品種の登場も待たれますが、改めて産地としての生き残りかけた対策の模索が急がれるのではないでしようか。

《内山常蔵 記》

Agri-s の



農機メンテの部屋

Vol. 25

連日の猛暑の中、農作業中に熱中症で体調を崩された方もおられるようです。

先日、民間会社による米の作況指数が発表され東日本は概ね102〜105という予想。ただし、この数字については現場には行かずに温度だけの積み重ねによる予想になっているため、各地で実況と合っていないと指摘されています。そんな中で、JAの概算金の予想価格が昨年産より1500円程度引き上げの発表があり、JAへ出荷予定の農家は、少しは喜ばれているようでした。

①収穫機械の準備

お盆の休日も終わり、米の収穫準備も始まっています。

毎年整備を依頼される方の機械は、ある程度整備記録が把握できていますので、整備中の程度の判断が簡単ですが、数年間整備されていない機械の場合は、やはりシーズン中のトラブルは嫌われますので、少しでも部品の消耗やベルトの摩耗があれば交換せざるを得ない場合が多いです。

②コンバイン

コンバインは、基本的にはエンジンオイル等の交換、および機内のネズミ侵入被害のチェック。機体内部の清掃から始め、チェーンの張り確認、各刃物の摩耗。足回りについてはグリスアップは十分にグリス注入、無給油式の足回りタイプは、ジャッキアップをして各車輪のガタのチェックを行うと同時にクローラの張りの調整も。また各ベルト類の点検時においてはベルトを外すか、少し回しての亀裂の有無(プリーリーの陰に隠れて一か所が切れかかっていたケースも有り)。

※ワンポイント

作業機(足まわり除く)各軸の支えとなるベアリング類には無給油と云われる種類も含めて取り合えず注油をして置くことがポイントで、これによりベアリングの寿命が大

幅に延びます。これは乾燥機等の軸受けベアリングにも非常に効果が有ります。

③作業場内機械

作業場内の機械設備は、一年中稼働り、精米作業をされている方は常に清掃等をされているので余り問題は無いと思いますが、秋出荷のみという方は、秋以降ほとんど作業されていない為、コンタミ防止の観点からも徹底した清掃等が必要です。

④乾燥機

まず作業場のコンセントの確認。近年、乾燥機において消費電力の増大化で電源コード、コンセント、プラグが発熱による変形、変色が見られるようになっていきます。これは、消費電流に見合っていない電気配線工事によるもので、昨年にコードの変色、発熱等が見られた場合、一度電気屋さんに確認してもらった方がよいかと思えます。また、動力200V三相電源においてコンセント、プラグの接触不良でブレーカが落ちる場合もあるのでコンセントの受端子の広がりがないか、プラグ端子とコードとの接続不良がないか抵抗を確認。さらに、通電して200Vを確認します。

清掃は機体上部から清掃し、

各コンベア等内に残留物が有ればきれいに清掃し、昇降機バケットの摩耗、破損のチェック、ベルトの亀裂のチェック、最後に燃焼テストを最大火力で行って温度が上昇するか確認して下さい。(旧式タイプではポンプ不良で燃圧が上がらず最高温度まで上がらない場合も有りました。)

⑤籾摺機

現在最も多く使われているロール式ゴムボールの交換時期について。ほとんどが同径タイプを採用されていて、ギアで片側を減速して回転差で籾殻を剥くという方式です。このゴムボールは大体600依程度で摩耗してきます。これの交換時期は金属部よりゴム部が1cm程度なら交換した方が効率的です。ゴム部が薄くなる程、破砕米の発生が増加し、ロール周速度が低下すると共に作業能率が低下します。



⑥各部の清掃
ネズミのフン等がある場合があるので出来るだけ外せるところは外して清掃します。



⑦選別機・計量器

構造的には簡単な機械ですので清掃用の蓋、スクリーン網等は外してエアブローしておけば良いと思います。また、この機械もネズミの被害は有り得るようで、特に電気配線で秤からの信号ケーブルの食害で計量数値の誤差数字のバラつき、シャッターが閉まらない等のトラブルが有ります。こういう信号ケーブル類を途中で継ぎ足しなど

すると計量誤差等が出るのでケーブルA S S Y交換となります。確認時に基準分銅でテストしてみて下さい。

リコール情報

各社、今春はあまり発表が無かったと安心していたら、Y社からまとまって発表されました。主力の4、5条刈コンバインの足回り不良で車輪の脱落の恐れあり、また、発売されたばかりの114馬力のキャビン使用がブレーキ時にキャビンが前傾する、小型2条刈の機種では左右クラッチ不良でミッドクション交換、2条刈の一部充電ユニットの不具合で発火の恐れあり、また、コンバイン、トラクタのほぼ半数程度の機種で燃料噴射パイプの亀裂発生の恐れあり等の情報が出ています。

また、K社から小型クラスの一部でクラッチディスク製造不具合で交換との情報が出ています。

《おまけ》